

③ インクルーシブボランティア：『誰もが参加できる』を目指して ー実践知は理論を生み出せるかー

「インクルーシブボランティア」とは、年齢や国籍、病気、障害の有無等にかかわらず、活動したい誰もが合理的配慮のもと、その人にあった多様な形で参加ができるボランティア活動を指す。特にコミュニケーションが苦手な人間関係構築に困難を抱える人は活動に結びつきにくい。

そこで第1回目となる本研究では、コメンテーターに妻鹿ふみ子会員を迎え、実践に資する理論を生み出していくために、まず前半は参加者の共通理解として、①大阪ボランティア協会・永井美佳会員がこれまでの取り組みやスタンスを確認し、②DDAC 発達障害をもつ大人の会・広野ゆい氏による当事者の視点での報告、③関西福祉科学大学・南多恵子会員による先行研究についての報告をいただいた。

その上で後半は、本テーマを多面的に捉えるため、参加者によるグループワークを実施し今後の視点・論点について議論した。議論では、社会へ発信や、事例による検証、対象の拡大、活動（参加）の場づくり、現行制度との整理など、当事者の視点、多様な意見があった。

今後はこれらの意見を参考にしながら、枠組みをつくり研究を進めていきたい。（文責：岩本 裕子）